



「夏のイメージ」文字絵
福井巳起さん・中3(有漢町有漢)



「あけぼのつつじ」ちぎり絵
平 桃枝さん(川面町)

「鶴」竹細工
石田宏一さん(玉川町玉)



「バッグ」機織(はたおり)
渡邊功子さん(成羽町下原)



ミニ★ピクチャ



市内で見られるホタルは、主にゲンジボタル。5月下旬から6月上旬ごろが見ごろです。月光が無く、蒸し暑く無風の日が鑑賞に適しています。この時期には市内の各地でホタル祭りや鑑賞会が行われます。

「福地川のホタル」写真



「重箱・茶托・銘々皿」備中彫
須广嘉雄さん(備中町長屋)

作品の募集について

自作の川柳、短歌、絵手紙、町の風景写真、絵画など

- 未発表の作品に限ります。
- 一人一品とします。
- 絵画は、その写真をお送りください。
- 住所・氏名・電話番号・年齢を明記のうえ、お送りください。

※締め切り 掲載号の前月の末日(必着)

【送り先】〒716-8501(住所不要)
高梁市役所企画課公聴広報係

※応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※提供いただいた写真等は返却できません。

■問い合わせ 企画課公聴広報係 ☎0210
Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp

市民のページ

文芸たかはし

(敬称略)

短歌

花柄のふと潤みたり母の日に愛孫のくれしエフロンうれしく

君病めば藤も五月も見ぬままに花の季節はあじとゆうまに
小野はる恵 (原田南町)

武家屋敷に方谷広めし柿の木が二百年過ぎ来し街を見廻す
亀石恵美子 (川上町仁賀)

庭先に尾振り踊りて餌を食むきつきつと鳴く名も知らぬ小鳥
坂田 昭夫 (松原町大津寄)

桜舞う大正琴を弾きながら童女の如きあの日恋しい
田中 弘子 (川上町領家)

植えしひとの足跡深く保つまま早苗田静もり白雲映す
西井百合子 (横 町)

俳句

暁のしじま破りてほととぎす
長原 茂子 (備中町西油野)

花祭りの旗行列の城下町
平松 幾代 (長寿園内)

川柳

せせらぎの音に遊べる落花かな
藤森 末子 (有漢町上有漢)

浮き草を舟にしあそぶ蛙のかな
結城 成子 (宇治町宇治)

嫁どもは知らぬふりしてつまみ食い
長谷川祐子 (成羽町下原)

不意の客鯖の缶詰大活躍
藤井タツ子 (備中町西山)

地名をあるく

八、津々羅



今回は、中井町津々と備中町平川に見られる「津々羅」という地名を尋ねてみたいと思います。

中井町津々にある「津々羅」は津々川に架かる津々羅橋から南東の祇園山(五五〇m)に鎮座する祇園寺(宮)へ登る北側の参道になっていました。入り口の津々羅橋付近は旧西方村との境にあたる場所でした。付近には、大師堂があり弘法大師作と伝えられる岩に刻まれた六地藏が祀られていたり、祇園道への道標が立っていたり、この付近が祇園信仰でにぎわったなごりが残っています。

また、付近には毛利の家臣穴戸備前守が攻めたと伝えられ、戦国時代末期に庄氏の一族津々加賀守が居城していたといわれる津々城の跡が残っています。今では、吉備高原の山々が迫る谷あいの道に沿って「津々羅」の集落や水田が見られる地域であります。

備中町平川にある「津々羅」は、吉備高原上にある平川の中心、中郷・下郷から波浪状にうねる高原面を備中と備後(広島県)の境に沿って九十九折りの道を南へ進むと県境にトロイデ型の火山だった日野山(六六九m)がそびえ、そのふもとにある安田の集落を過ぎると山間に八軒の「津々羅」の集落があります。西は広島県神石郡神石高原町、南東は井原市芳井町や川上町高山市に接しています。山間にわずかな水田が見られるだけで、平坦地に乏しくほとんどが斜面を利用した畑作の地域なのです。

「津々羅」の西の尾根は「八国の峰(六八〇m)」といわれる三角点を持つ山で、平川では一番高い海拔高度の場所でもとには備後との境にあたる峠があります。

今でも峠には、道標を兼ねた牛馬供養の万人講石と六地藏の道標石仏が立っていて峠を大切にしたい信仰の歴史を感じさせてくれます。「津々羅」に住む瀬戸川角男さん(77歳)は「昔この峠は、大変淋しく恐ろしい場所だったのです。人斬りがよく出たという言い伝えが残っているのです」と話してくれました。

「津々羅」の地名は寛保三年(二七四一)の「平川村明細帳」(平川家文書Ⅱ「備中町史」)に平川村の枝郷の一つとして書かれ「腰山(越山)つらへ本郷より一里半南の方」などと地名が見えています。

また、文化一〇年(一八一三)の「平川村明細帳」(前掲書)にも「御林つら谷隠地平山：御留山(直轄林)の御林守…」などと書かれています。産土神は素盞鳴命を祭神とする笠神社(大明神)で、社殿は小さいが本殿裏に笠形の陽石が祀られ、穀物の豊年と止雨に靈験あらたかな神として信仰され、巨石信仰自然崇拜の名残りを留める神社であります。

「津々羅」という地名は「葛折」即ち、クズの葛のように折れ曲がっている意味から「重ね合わされたような地形」とか「幾重にも曲がりくねった坂路Ⅱ九十九折」、「つづら折りになった山路」の意味に用いられ、綴、葛、葛籠、津々良、津々羅などの文字が使われることがよくあります。「津々羅」の地名は、自然環境を端的に表現した地形語で、自然地名の一つなのです。

(文・松前俊洋さん)



波浪状の吉備高原上にある津々羅の集落 (備中町平川)